

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立諸富中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としています。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和6年4月18日(木)

■ 調査の対象学年

中学校3年生生徒

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語・数学)

- | |
|---|
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。 |
| ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。 |
| 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。 |

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

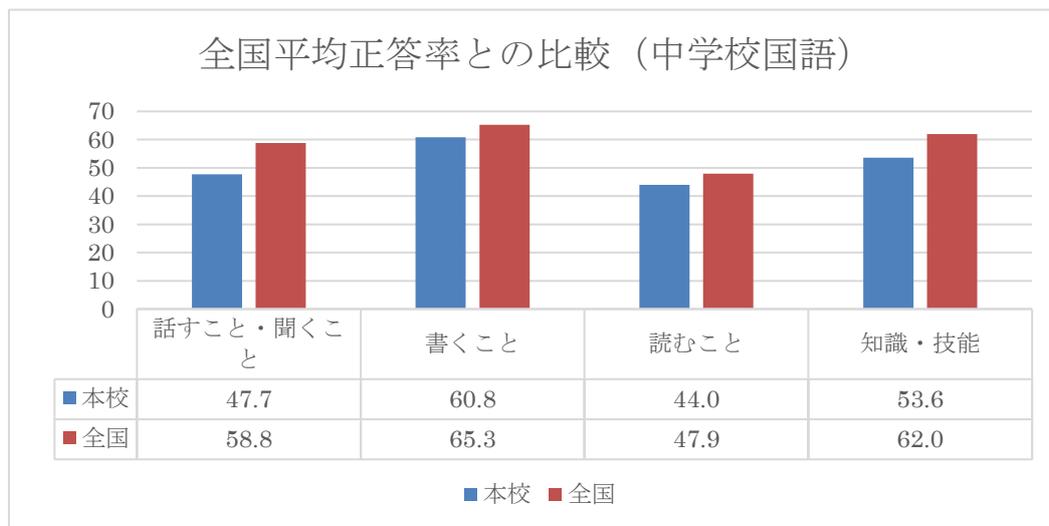
児童(生徒)に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心, 授業内容の理解度, 基本的な生活習慣, 家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組, 指導方法の工夫, 学校運営に関する取組, 家庭・地域との連携の状況 など

■ 調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

全体的に全国平均正答率を下回っています。特に、「知識・技能」の項目に含まれる「我が国の言語文化に関する事項」の行書の特徴理解を問う問題において全国平均正答率を下回っています。

(2) 成果と課題

「思考・判断・表現力」の項目に含まれる「読むこと」では、全国平均正答率を3.9ポイント下回りました。同項目の「書くこと」でも4.5ポイント下回りました。

木曜日の朝の「読書タイム」や毎日提出の学活ノートの「1日のようす」を担当の先生に伝える「書く」習慣が定着するように継続していく必要があります。また、全体的な向上はもちろん、「思考・判断・表現力」に含まれる「話すこと」が全国平均正答率を10ポイント以上下回っています。相手を意識した話し方の工夫、目的を持った「話」のスキルアップ等が今後の課題であると考えています。

(3) 学力向上のための取り組み

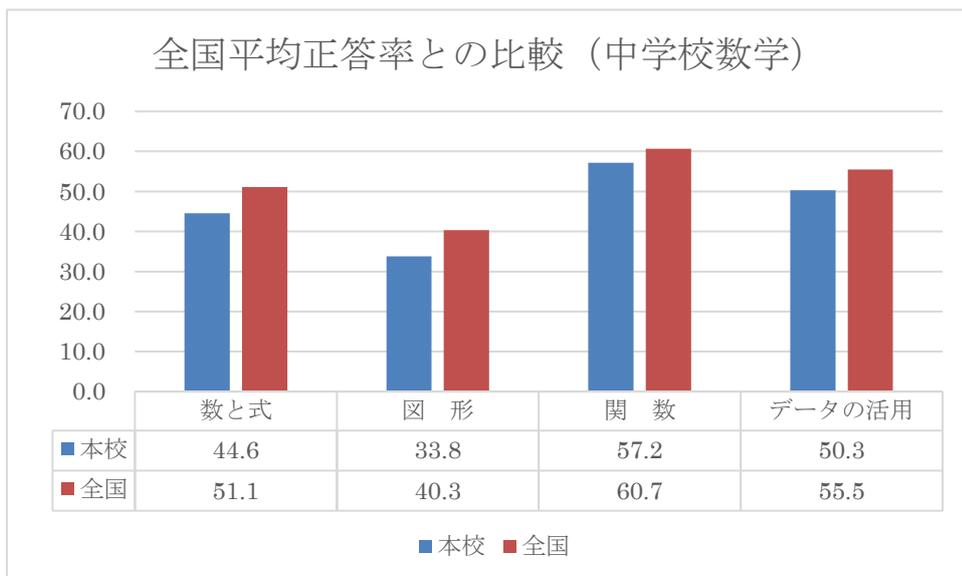
【学校では】

- 今後も、教材や目標、目標達成に向けた活動内容を掲示し、授業の方向性を視覚的にも示し、見通しを持った授業を展開します。
- 今後も、授業開始直後の5分間、タブレットやプリント等を活用した帯活動を続け、言語能力の向上を目指します。
- 話し合いの学習活動では、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることを意識できるような授業を展開します。

【ご家庭では】

- 曜日ごとに提出している家庭学習課題を、タブレット学習にする予定です。可能であれば、ご家庭でお子様と一緒にタブレット学習に取り組みみてください。
- タブレットの問題は多岐に亘りますので、お子様の現状に合った問題に取り組みてください。
- 読書は学問の「万能薬」と聞きます。家族読書の時間や家族読み聞かせ当番制など、されてみてはいかがでしょうか？
本校のメディアルーム(図書室)では、お子様と同伴であれば保護者様にも貸し出し可能です。是非メディアルーム(図書館)をご利用ください。

2 数学



(1) 結果

全ての領域で全国平均正答率をやや下回っています。「道筋を立てて考え、証明することができる」の無回答率が 49.4%、「複数の集団のデータ分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」の無回答率が 39.2%でいずれも全国平均を上回っていました。

(2) 成果と課題

「与えられたデータから最頻値を求める」の正答率は、県平均正答率を 3.4 ポイント上回りました。

数と式の領域の「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして事柄が成り立つ理由を説明する」、「統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明する」が特に課題です。

無解答率が高かった問題は、すべて記述式でした。見通しを持って解決するための多様な見方・考え方と表現力が課題です。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 基礎・基本の問題の定着に重点を置くと共に、生徒が実生活の中で役に立つと思えるような学習課題の設定や授業方法を実施していきます。
- ペア活動やグループ活動など、生徒同士が教え合いながら問題を解決できる授業を展開します。
- タブレット型パソコンを活用し、数多くの問題に取り組めるようにします。

【ご家庭では】

- お子様が週ごとの学習課題(毎週金曜日提出)に取り組まれることで、授業内容の復習と授業時間だけでは足りない練習量を補うことができます。特に、数と式・図形に関しては練習量を増やすことが重要です。
- タブレット型パソコンの「e ライブラリー」を活用することで、既習内容の復習や練習量を確保することができます。タブレット型パソコンの使用について、ご家庭で声掛けをお願いします。

3 生活習慣や家庭でのスマホの使用時間に関する質問調査

(1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童（生徒）の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	72.2%	79.1%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	27.8%	34.9%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	57.7%	55.3%
自分にはよいところがあると思いますか。	29.1%	40.4%
将来の夢や目標を持っていますか。	39.2%	36.1%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	64.6%	68.6%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	75.9%	77.5%

就寝時刻が定まっていないのが気になります。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしておくことはとても重要です。家庭と学校で協力して、習慣化していきましょう。

将来の夢や希望について、肯定的な回答をした生徒は全国平均よりも高い結果が出ています。

《家庭でのスマホの使用時間に関する質問調査》

調査の項目	本校%	全国平均 %
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか？「4時間以上」	26.6%	18.2%
「3時間以上、4時間より少ない」	21.5%	14.3%
「2時間以上、3時間より少ない」	16.5%	23.4%
「1時間以上、2時間より少ない」	16.5%	23.3%
「30分以上、1時間より少ない」	10.1%	10.7%
「30分より少ない」	5.1%	5.8%
携帯電話やスマートフォンを持っていない	1.3%	3.4%

1日3時間以上スマートフォンを使っている生徒が48.1%です。同様の調査での全国平均は32.5%となりますので、全国水準を大きく上回っていることとなります。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- どの学年でも、基本的な生活習慣が身に付くようにあいさつや、係活動、無言清掃などを徹底することで生徒自身の心の成長を促しくとともに、生徒会主催のあいさつ運動も継続していきます。
- スマートフォンの使用に関するリテラシー教育として各教科の関連する分野や道徳の授業、また専門家を招聘して、集会を行うなど使い方に関する学習と行っていきます。
- 本校の目標でもある「夢をもち たくましく 挑戦する 生徒の育成」にあるように将来の夢をもつことの大切さを伝えること、多くの生徒さんが将来の目標に向かえる環境づくりに取り組みます。

【ご家庭では】

- 基本的な生活習慣はあいさつや感謝の気持ちから始まると考えます。ご家庭でも気持ちのよいあいさつ、感謝の気持ちを伝える言葉がたくさん出てくるとお子様の自己肯定感が向上します。
- スマホの使用時間や閲覧している内容を、もう一度見直してみるのもよいと思います。スマホ以外でのコミュニケーションを増やすことで、お子様の頑張りに気付くきっかけになると考えます。